

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：34317

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770049

研究課題名(和文)「明治期の高僧絵伝」における地方寺社伝承の近代化に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Modernization of the Tradition of Regional Temples in the Monk Picture scroll in the Meiji Era.

研究代表者

鈴木 堅弘 (SUZUKI, kenko)

京都精華大学・人文学部・講師

研究者番号：80567800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、幕末・明治期の高僧伝絵や寺社縁起絵巻を対象とし、北陸、九州、関東の寺社を中心に、計18カ所の地域にてフィールド調査を実施した。結果、絵巻の図像や資料形態等の基礎データを収集する共に、近世後期から明治期の地方において、高僧伝絵や寺社縁起絵巻が盛んに制作されている実態を明らかにした。くわえて、それらの図像や縁起資料(文献)を詳細に分析することで、同絵が描かれる信仰的・宗教的・地域的な文化背景を自明化するに至った。また同テーマの学術公開シンポジウム「俗化する高僧伝絵と明治時代」を2015年12月に実施し、その内容を編者としてまとめた書籍を2017年11月に刊行する予定である。

研究成果の概要(英文)：In this research, I have studied religious paintings and Buddhist paintings of the end of the Tokugawa period -Meiji era of Japan. Mainly in the shrines of Hokuriku, Kyushu and Kanto, field survey was conducted and I discovered many picture scrolls related to Buddhist temples in the Edo and Meiji era. I also conducted an investigation of picture scrolls in 18 field areas. As a result, I was able to gather a lot of basic data such as the image of the picture scroll and the form of the material. Furthermore, I analyzed the image data in literature materials, and presented a total of five academic papers. Regarding the research results, I could grasp the fact that the religious picture scrolls and temple picture scrolls from the end of the Tokugawa period to the Meiji Period are still left in local temple and shrines. In addition, I analyzed those picture scrolls by the method of iconography, and revealed folklore, religious and regional culture background in which the picture is drawn.

研究分野：人文学

キーワード：仏教 美術 絵巻 近代 明治時代 説話 伝承 図像

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、日本の中世期・近世期における高僧伝承を伴う掛幅縁起絵に関する研究は、国文学、歴史学、美術史学にて、互いの学問領域を越えて盛んに行われている。しかし、そうした学際研究は、「前近代」という範疇にて考究されることが多く、明治以降の「近代」の視座に向けられることが少なかった。

他方、日本の絵画研究はおもに、博物館・美術館を主軸としつつ、大学機関も含めて、そうした研究施設の内側で考究・収集が進められてきた。その際、考究の俎上の基準となるのが「絵師」や「作品のオリジナル性」であり、逆に、地方寺社に遺る近世後期から明治にかけての無名絵師に関する絵巻や絵図に関しては、ほとんど注目されてこなかった。そこで本研究では、考究の場を博物館・美術館ではなく、地方寺院のフィールドに設定し、美術研究に民俗学的・人類学的なフィールド調査の要素を取り入ることを、当初、研究開始の主たる目的の一つとした。

(2) 本研究は、近年の地域社会の矮小化という問題を受けて、これまで、寺社における絵解き法会が果たしてきた地域コミュニティの育成という役割を見直し、現代において高僧絵伝を用いた「唱導の場」を再起することを目指した。そのことで、地方の村落社会において寺社を中心とした伝承性の継続を促すと共に、それらの伝承や絵画を地域社会の活性化に役立てる狙いがあった。

本研究にて、幕末から明治期にかけての高僧絵伝や寺社縁起絵巻の絵図を画像学の方法を用いて分析することで、「なぜ幕末から明治期にかけて、各地方で高僧伝承や寺社縁起が再び絵伝として描かれ始めたのか」、その文化位相を「図像」(絵伝)と「文献」(明治期の縁起書類・略縁起)を横断する観点から広く検討し、その結論を地域社会における市民講座などで地元に戻元することをめざした。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、幕末から明治期にかけての高僧絵伝や寺社縁起絵巻を対象とし、北陸、東北、関東の寺社にてフィールド調査を実施することで、日本近代の地方社会において、信仰の「場」に帯びる民衆の宗教観を捉え、寺院廃合や廃仏毀釈等の中で芽生える「地方寺社伝承の近代化」という文化位相を明らかにすることを目的とした。

(2) また本研究は、地方寺社の絵伝を調査することで、そこに含まれた在地伝承を地元の人々が再認識する効果も期待されている。このことは、近年、地方社会の過疎化が進み、寺社を中心とした地域コミュニティが崩壊しつつあるなかで、その研究報告を寺社な

どで行うことで、研究成果を地元に戻元し、住職による絵解き法会の復活や名所聖跡の再認識など地域活性化につながる目的を含んでいた。

3. 研究の方法

(1) 本研究の方法は、北陸、東北、関東の地方寺社に遺る幕末から明治期にかけての高僧絵伝や縁起絵巻を、寺社訪問のフィールド調査を実施するなかで、発見・資料撮影し、その図像内容や資料形態を江戸期の絵伝や版本挿絵と比較検討することにより、「近代」における高僧絵伝や寺社縁起の差異性や継承性の実態を浮き上がらせる。

(2) また本研究は、幕末から明治期にかけての高僧絵伝や寺社縁起絵巻の図像(イメージ)内容を、その絵伝に関する寺社の「読み縁起」・「略縁起」等の文献テキストと関連させて捉えることで、こうした絵伝が、明治期以降も絵解き法会等の「唱導の場」で活用されていた史的状況を把握する。

(3) 本研究は、美術史学による図像学の方法を用いて、フィールド調査で発見された絵巻や絵伝に描かれた図像が意味する説話や伝承を、同時代やそれ以前の文献資料を用いて把握する。またこうした方法を通じて、明治期の地方社会における「場」に帯びる民衆を主体とした信仰観や宗教観を捉え、寺院廃合や廃仏毀釈等の中で芽生える「地方寺社伝承の近代化」という文化位相を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 本研究において、以下、～の5編の論文を作成し、学術誌・書籍に掲載した。

「山中温泉縁起絵巻」から読み解く霊場と信仰 寺社縁起・温泉霊場・白山信仰」

日本の温泉文化を考える場合、寺社という宗教施設は、極めて重要な信仰の役割を担ってきた。昨今の温泉には、そうした寺社を中心とした湯泉霊場の意識は薄れつつあるが、日本各地の温泉は、古代から中世にかけておもに寺僧や修験者によって開発され、彼らによって維持された歴史をもつ。たとえば、その例として、伊豆走湯山の修験霊場 や温泉山大乗院満明寺の雲仙岳修験、有馬温泉の勸進集団 や草津温泉の光明寺薬師信仰 をあげることができる。もちろん、これら温泉と寺社をつなぐ文化背景には、寺僧による湯施行の習慣 や 湯泉が病を癒やす機能 によって温泉を信仰の 場 とする意識がはたらいていたことは言うまでもない。

そこで本論は、この視座を江戸期に日本三大温泉のひとつとされた「加州山中温泉」に用いることで、同地金剛山医王寺にのこる《山中温泉縁起絵巻》や『山中温泉略縁起』等の寺院資料を手がかりに、中世から近世後

期より続く 温泉 と 寺社 と 伝承 が 一体化した湯泉霊場のコスモロジーを論じた。また、その際にポイントとなったのが、山中温泉の東方にそびえる 白山 を中心とした山岳信仰である。ただ、近世末期に制作された《山中温泉縁起絵巻》や『山中温泉略縁起』等には、白山信仰と山中温泉の伝承を結びつける具体的な記述は見られない。そこで本論は、絵巻の図像や山中医王寺の寺社縁起を読み解くことで、山中温泉縁起 と 白山信仰の伝承 との類似性を指摘し、同温泉の「場」や「物語」が白山信仰の文化圏の内側で育まれた実態を解き明かした。

「『荻野堂縁起絵巻』と洞門説話-秩父三十四観音霊場・曹洞宗・神人化度説話-」

本論では、埼玉県秩父郡横瀬町のト雲寺（曹洞宗）が所蔵する《荻野堂縁起絵巻》を取り上げた。同縁起絵巻は、秩父三十四所観音霊場の第六番札所・荻野堂に関する開基伝承を描いたものである。なかでも注目すべきは、同縁起には、武甲山の山姥濟度やトが地の悪龍濟度等の土地神教化の説話が描かれている点である。こうした神人化度・悪霊鎮圧の説話（高僧伝）は、おもに曹洞宗・総持寺派の洞門説話に多くみられるものである。

そこで本論では、江戸後期にかけての秩父地域における曹洞宗の教線拡大や禅の民間普及の歴史的視座をふまえて、《荻野堂縁起絵巻》の縁起や図像が曹洞宗の説話をもとに成立した背景を読み取ることを目的とした。また本論は、秩父三十四観音霊場の起源に曹洞禅の関与を指摘するものではないが、江戸期にかけて霊場巡礼が盛んになるにつれて、それまで同地域でパラレルに存在した禅僧の洞門説話が、秩父観音霊場の成立に関わる修験伝承の位相のうえに積み重なることで、新たな観音伝承が創出された問題も合わせて考察の対象とした。

「『深大寺縁起絵巻』と深沙大王説話 水神信仰・絵巻と洪水・天海僧正」

本論では、東京都調布市深大寺（天台宗）が所蔵する《深大寺縁起絵巻》を取り上げた。同縁起絵巻は、享保7年（1722）に成立し、同寺の開創譚と歴史経緯を描いたものである。なかでも注目すべきは、玄奘三蔵説話、深沙大將説話、元三大師説話、神木流着説話、食児仁王説話など、さまざまな説話要素で彩られている点にある。ところが、こうした重層的な説話を含む縁起や絵巻は、研究素材として煩瑣な意義を含むためか、これまでの研究においてほとんど顧みられることはなかった。また日本における深沙大將に関する説話・伝承に関しても、仏教的範疇あるいは水神信仰の一面面としての文化的意義は大きい。そこで本論では、次の二点を論点とし、深大寺縁起絵巻に描かれた説話の成立背景を、同寺院をめぐる地理空間や、関東天台の時勢状況から読み解くことを目的とした。

〔 〕 深大寺周辺の地形状況を鑑みて多摩川氾濫による洪水・水害が、同寺院の縁起

譚や絵巻絵相の生成に深く関わっていたことに着目する。その際、深沙大王説話、岩上の白蛇説話、神木流着説等の深大寺をめぐる諸説話が、同地域の水神信仰を背景に寺社縁起に組み込まれていった可能性を指摘した。

〔 〕 近世前期成立の関東天台寺院に遺る寺社縁起および絵巻は、その内容や制作背景に天海僧正の意向が深く関わってきた。そこで本論では、同絵巻を制作された時代の関東天台の布教活動および絵巻制作の実景に着目し、天海僧正にゆかりがある縁起譚（「東照大権現縁起」等）と深大寺縁起との関連性・近似性を示している。

「『熊野観心十界曼荼羅』にみる性愛のイコノグラフィー」

これまでの熊野観心十界曼荼羅研究では、おもに地獄の図像に関する研究が中心であった。血の池地獄や両婦地獄など女地獄の絵相などの愛欲の不義は、性愛の意義を説かずして示すことはできないだろう。そこで本論では、「玄旨帰命壇」による口伝書などから、《熊野観心十界曼荼羅》に描かれた 性愛 の意味を探り出すことを試みている。それはまた、中世後期に広がった色欲肯定の仏教思想観に着目し、熊野比丘尼が夫婦和合の意義を説いた実相を捉えることで、同絵の「心」字の絵相（イメージ）に 性愛 の意味が読み取れることを明らかにした。また、《熊野観心十界曼荼羅》に描かれた 性愛 の意味は、幕末期から明治期にかけて、熊野比丘尼や熊野山伏たちの語りによって、「富士講」を介して絵馬などとして遺されていった実態を「笹井観音堂の絵馬類」（埼玉県狭山市）の現地調査にて得られた絵画資料をふまえて明らかにした。

「『増福院縁起絵巻』と語られる怨霊譚-寺社縁起における 近代 とは何か-」

本論では、福岡県宗像市妙見山増福院（曹洞宗）が所蔵する《増福院縁起絵巻》を取り上げる。同縁起絵巻は、正確な成立年は不明であるが、昭和3年寄附の刊記があり、貝原益軒による『増福院祭田記』（増福院寺社縁起）をもとに描かれたものである。内容は、宗像大宮司の御家断絶に伴う怨霊譚と、その怨霊を鎮める六地藏尊に関する由来縁起である。

また同寺は、宗像大宮司家の神宮寺であるがゆえに、明治期に入ると、神仏分離や廃仏毀釈の時流をまともに受ける。宗像神社が同寺院を神社に改めるべく檀家衆に働きかけると、檀家衆が神派・佛派に分離し、地藏本尊や縁起書・絵巻等を散逸させてしまう。

そこで本論では、増福院をめぐる人びとが神仏分離や廃仏毀釈に翻弄される歴史をたどると共に、同時代の新聞や出版メディアが、寺社縁起を地域怪談へと移しかえていったプロセスを明らかにした。

（2）本研究において、調査先の地域にて市民講座を開催し、研究成果を地域住民に還元

した。また、同研究テーマを主軸とした公開学術シンポジウムを主催し、約40名の聴講者と共に、明治時代の高僧絵伝や寺社縁起絵巻の成立の問題に関して、活発な議論をおこなった。

「絵巻物から読む山中温泉 「山中温泉縁起絵巻」について」(山中温泉町・市民講座/2015年7月27日:於「芭蕉の館」)

同研究の一環として調査した「山中温泉縁起絵巻」の論考をふまえて、その研究成果を山中温泉町の住民の方々へ市民講座として還元した。約30名の聴講者があり、約1時間、「山中温泉縁起絵巻」の図像の意味に関する説明と白山信仰との文化背景を伝える講演を実施した。

公開学術シンポジウム「俗化する高僧絵伝と明治時代-寺社縁起における近代とは何か?-」(於京都キャンパスプラザ/2015年12月26日)

本研究に関する公開学術シンポジウムを同研究の代表者ふぁ企画・立案・実施し、明治期の高僧絵伝の近代化に関する問題をテーマにした学術講演・パネルディスカッションをおこなった。

シンポジウムでは、文学・美術史・民俗学・宗教学を専門とする6名の先生方と、本研究の代表者が研究発表をおこなった。その内の4名がパネルディスカッションに参加し、司会を本研究の代表者がつとめた。シンポジウムを通じて、高僧絵伝と明治時代の文化位相を認識する際の諸問題が浮き彫りとなり、その成果は2017年11月末に三弥井書店から論考集『俗化する高僧絵伝と明治時代』として出版される予定である。



(3) また上記の「論文発表」および「学術シンポジウム」以外に、同研究において、諸地域・寺社へのフィールド調査にて、高僧絵伝や寺社縁起絵巻の図像データを収集した事項を下記に記す。同時に、それらの調査にて新たに発見した「読み縁起」・「略縁起」等の文献テキストもあわせて翻刻した。

「蓮如上人絵伝(つぶら児の名号伝承)」(石川県本泉寺調査)

「親鸞聖人関東絵伝」(静岡県専光寺調査

)
「風光寺開基縁起と絵画資料」(長崎県平戸市風光寺調査)

「親鸞聖人関東絵伝」(石川県通願寺調査)

「元三大師縁起絵巻・慈眼大師縁起絵巻」(東京都寛永寺調査)

「木子山十字名号縁起絵」(宮津町教念寺調査)

「紀道大明神縁起絵巻」(和歌山県日高郡調査)

「七人童子絵詞」(茨城県水戸市調査)

「圓仁和尚入當山記の地図絵」(京都市山科区毘沙門堂調査)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計3件)

鈴木 堅弘 「「山中温泉縁起絵巻」から読み解く霊場と信仰 - 寺社縁起・温泉霊場・白山信仰 - 」、『佛教藝術』、第338号、佛教藝術学会、毎日新聞社、査読有、PP. 41 - 70

鈴木 堅弘 「『荻野堂縁起絵巻』と洞門説話 - 秩父三十四観音霊場・曹洞宗・神人化度説話 - 」、『説話・伝承学』、第23号、説話・伝承学会、査読有、PP. 137 - 154

鈴木 堅弘 「「深大寺縁起絵巻」における深沙大王説話とその絵画的継承 - 縁起形成の近世的在り方への一考察 - 」、『京都精華大学紀要』、第49号、京都精華大学、査読有、PP.80-101

http://www.kyoto-seika.ac.jp/research/rlab/wp/wp-content/uploads/sa_suzuki_kenko5.pdf

(学会発表)(計5件)

鈴木 堅弘 「「山中温泉縁起絵巻」から読み解く白山信仰 - 温泉・遊樂地・寺社縁起 - 」、日本宗教民俗学会、2013.9.14、大谷大学

鈴木 堅弘 「『荻野堂縁起絵巻』(ト雲寺所蔵)と洞門説話 - 秩父三十四観音霊場と曹洞禅をつなぐ視座から - 」、説話・伝承学会、2014.4.27、中京大学

鈴木 堅弘 「『深大寺縁起絵巻』と深沙大将説話 - 水神信仰・関東天台・天海僧正 - 」、説話・伝承学会、2015.5.3、京都女子大学

鈴木 堅弘 「「増福院縁起絵巻」と語られる怨霊譚 - 寺社縁起から「九州一の怪談」へ - 」、公開学術シンポジウム「俗化する高僧絵伝と明治時代」、2015.12.26、キャンパスプラザ京都

鈴木 堅弘 「山科毘沙門堂の寺院資料から読む中禅寺湖の霊場空間 - 「圓仁和尚入當山記の地図絵」・「出雲寺毘沙門堂略縁起」を中心に - 」、説話・伝承学会、2016.4.24、同志社大学

〔図書〕(計2件)

鈴木 堅弘 「熊野観心十界曼荼羅」にみる性愛のイコノグラフィー』、新典社、『説話の中の僧たち』、2016、PP.259-295(共著：総37頁)

鈴木 堅弘 「《増福院縁起絵巻》と語られる怨霊譚 - 寺社縁起における近代とは何か - 』、三弥井書店、『俗化する高僧絵伝と明治時代』、2017.11 刊行予定、編著担当

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 堅弘 (SUZUKI kenkō)
京都精華大学・人文学部講師(非常勤)
研究者番号：80567800